

令和6年度第1回 富良野市環境審議会 議事録

■日 時 令和7年2月12日（水）13時00分～15時20分

■場 所 富良野文化会館1階 会議室D

■出席者

＜委員＞ 高橋穰二、家次敬介、永盛俊行、佐藤健治、井出紳也、西村尚之、
長谷川一也、芝野伸策、民輪伸幸、杉谷久己、平間早苗、南部榮一（12名）

＜欠席委員＞ 尾張敏章、石川 芳、佐藤里津江（3名）

＜事務局＞ 市民生活部長 北川善人、環境課長 高橋秀文、環境課主幹 鵜飼敏行
環境係長 山岡鶴生

＜事務局サポート＞ NTT データ経営研究所（計画策定支援業務受託者 4 名）

1. 開会（進行：高橋課長）

2. 辞令交付

- ・市長欠席のため委嘱辞令は直接交付せず各席に配置

3. 市長あいさつ（代理：北川部長）

- ・本市は埋めない、燃やさないを合言葉にごみの14種分別を開始し、平成14年度より資源化率はおおむね90%となっている。現在焼却処分をしている衛生用品についても資源化にむけた実証実験を行い、さらなる資源化率向上に努めている。
- ・地球温暖化対策については令和3年4月1日、2050年ゼロカーボンシティ表明を行い、第三次富良野市環境基本計画および地球温暖化対策実行計画をベースに、令和5年には富良野市脱炭素ロードマップ、富良野ゼロカーボンアクション100+アルファを策定し、連合町内会長会議、市長懇談会、出前講座などにおいても、市民生活における脱炭素への取組、ひとりひとりの行動変容について説明しているとともに、ふらの環境会議主催による環境展でもゼロカーボンについて啓発活動を実施している。
- ・令和4年に富良野水処理センターに太陽光発電を設置、本年6月から市内小中学校4校で発電設備導入に向けた取組を行っている。この技術については今年4月開催の大阪関西万博にて展示される。本市に導入されたときには審議会の皆さんと現地視察も検討したい。

4. 会長・副会長選出

- ・委員の互選により、会長：高橋委員、副会長：家次委員を選出

5. 会長あいさつ（以下進行：会長）

- ・15名中6名が新たに選出されている。
- ・富良野市環境審議会は富良野市全体の環境を考える会。

6. 出席者紹介

7. 報告事項

- ・富良野市環境白書について

R5 環境白書を作成中。完成しだい委員の皆さんに配布、市ホームページで公表。

- ・環境に関する市の取組について

「ゼロカーボンアクション 100+α」の周知・紹介

「ふらの環境展」「施設見学会」「出前講座（環境関連）」の開催

「枝草類のバイオ炭化実証実験」「再エネ導入補助金」「電力リバースオークション」

「森林Jクレジット」などの実施

《質疑・意見》

【委員】

- ・枝草の炭化についてはどのような取組か

【事務局】

- ・枝は粉碎したものを燃料材として道内の工場へ売却。草は市のごみ処理施設で特殊肥料としてたい肥化し、近隣農家に無償で引き渡しているが、小枝など除去できないものが混ざってしまい利用できる農家が非常に少ない。

解決方法の一つとして草を炭にする取組を考え、実証試験をした。結果、炭にできることは確認できたが、実際に事業化するかどうかは課題もあり今後の協議・検討が必要。草には水分が多いので、熱処理によっていかに乾燥させるのかが大きな課題。

【委員】

- ・将来、実用化を考えているのか？市民還元を考えているのか？

【事務局】

- ・大量にはできないので、市民ではなく農地に還元をして炭素の封じ込め＝マイナスカーボンの取組につなげられたらいいと考えている。
- ・エア・ウォーターと実証実験をしているが、現実的にはまだまだ難しい。

【委員】

- ・逆に熱を使って二酸化炭素を発生させるということは？

【事務局】

- ・熱源を何にするかによる。化石燃料ではない方法も考える必要がある。

【委員】

- ・バイオ炭化は、あと何年続けるのか。

【事務局】

- ・実証実験は今年度で終わり。今後は、事業を継続できるかどうかの検討を進める。

【委員】

- ・市の取組について説明をいただいたが、初めて聞いた事業もあったが、今後も、委員の皆さんには報告、お誘いいただきたい。

8. 議事

- ・富良野市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・案）について

《質疑・意見》

【委員】

- ・一般廃棄物を処理するためには、収集運搬や工場での選別作業に伴うエネルギー消費もある。それらはどの部門に該当するのか？

【事務局】

- ・収集運搬は運輸部門、工場での作業は業務その他部門。

【委員】

- ・「燃料については2013年から2021年割合が微増」とは？

【事務局】

- ・グラフを客観的に評価した表現。

【委員】

- ・運輸部門の算出は、市内の燃料購入量と連動している？

【NTT】

- ・P9に算出方法を記載。全国で消費されて燃料を、富良野市で買われた車の台数で割り返したもの。燃料購入量とは連動していない。

【委員】

- ・「世帯数が減っても排出量が変わらない」というのはどう理解すればよいか。

【NTT】

- ・2013～2021年の世帯数減少率から傾向予測している。単身世帯が増えている分、世帯数は大きく変わっていない。

【委員】

- ・中期目標48%削減を「60%の高みを目指す」とした経緯は？

【事務局】

- ・脱炭素ロードマップで表記しており、これを反映するかどうか。情勢的に攻めた取組が必要とされているなかで、目指すところは高いところにおいて挑戦をしていく方向でまとめたところ。
- ・地球温暖化対策については、国などの補助金をいただきながら進めることの見通しのもとで出した数字。

【委員】

- ・専門的な用語や新しい用語には説明書きが必要と思うので検討を。

【NTT】

- ・注釈を入れるか、最後に用語集を入れるかで整理をする。

【委員】

- ・街路樹とか公園の木は増えてるのか、減っているのか。

【事務局】

- ・街路樹は相対的に減っている。公園の木も地域の要望で切っているので、増える要素はない。今後は街路樹も含めて、植えていかなければいけない。

【委員】

- ・木は 50 年、早いものでは 30 年で更新が必要。静内の桜並木は毎年更新している。

【事務局】

- ・なまこ山は道の保安林なので、道と調整しながら手を入れていく。

【委員】

- ・電線網を地域の持ち物にするようなスモールグリッドを構築し、再エネをつなげる観点も計画で検討が必要では？

【委員】

- ・マイクログリッドはハードルが高く、あきらめている自治体が多いと感じる。需要と供給のバランスや地域の理解なども。

【NTT】

- ・マイクログリッドには 2 つのタイプがある。1 つは、地域に自ら電線を作るタイプで、コストが高く普及していない。もう 1 つは、既存の電線を非常時に使えるように再エネと結びつけるタイプで、こちらも現状はハードルが高いため、今回の計画の中にはまだ入れていない状況。

【委員】

- ・ペロブスカイトの導入は？

【事務局】

- ・日本国内にある資源で製造可能なペロブスカイトをどう展開していくか、国含めて民間研究している最中。市販されるようになれば導入を考えていく。

【委員】

- ・RDF とは？

【事務局】

- ・RDF は、紙・木類・衣類などを細かくして熱で圧縮成形したもの。年間 2,000 トンのうち 1,800 トンが札幌市の熱供給会社に売却。残りの 200 トンがハイランドふらのの冷泉の加温で熱利用をしている。

【委員】

- ・ダイオキシンの問題はクリアできたのか。

【事務局】

- ・ハイランドふらので使っているが、浄化装置をつけているのと、ダイオキシンが出ない 800 度以上で 2 秒間の滞留時間を作っている。定期的に測定しているが、似たようなごみの焼却炉と比較するとクリアできている。

【委員】

- ・クリアできているのであれば、なぜ新庁舎に固形燃料を利用しなかったのか？

【事務局】

- ・プラスチックを燃焼するので臭いの課題があり、市街地での利用は見送った。

【委員】

- ・廃熱利用や効率化など、企業向けコンサルができる市の機関などがあると推進しやすいのでは？

【事務局】

- ・北海道ではゼロカーボンチャレンジャー制度がある。市内企業の登録もあり、周知も

考えていきたい。

【委員】

- ・子どもへの環境学習を重視すべきではないか。教育委員会としっかり取り組んでいたきたい。子どもたちを東大演習林に連れて行ったりして初めて富良野の良さや脱炭素の問題などを理解すると思う。

【事務局】

- ・教育委員会と連携しながらすすめていきたい。まずはドコモさんとのJクレジットの学習を進めていきたい。

【委員】

- ・植樹した木の寸法計測を毎年 30 年以上小学生が行っている事例がある。長く続ける試みも大事。

【委員】

- ・自然生態系分野の調査東の実施検討とあるが、検討で終わらないで欲しい。モニタリングは大切。鳥沼公園が乾燥化しているのでモニタリングを始めている。そういう取組を市民と共有することが脱炭素にもつながると思う。

【委員】

- ・水資源について。PFAS という自然界にない物質が、富良野の原水から出たということ、市民に対して適切に公表をすべき。富良野の子どものアトピー性皮膚炎の割合が全国比で突出しているのも気がかり。基準内だからと言って安心できない問題。

【事務局】

- ・微量ではあるものの、広報で周知したところ。なぜ富良野で数値が出るのか、今後の推移を見ながら対応していく。

【委員】

- ・推測だがアンケート回答者に高齢者が多いのでは？若い人の比率を多くすることはできないものか。

【委員】

- ・回答者を意図的に操作することはどうか。

【NTT】

- ・無作為で 1,000 人が選ばれた。70 代が多いのは確か。市民向け以外に、事業者向け、中学生向けを実施。若者の意見は中学生向けで取れているという形ではどうか。

【委員】

- ・なぜ中学生？高校生は考えなかったのか？

【事務局】

- ・前回も中学生であった。高校生は富良野以外の方が多いという点もある。

【委員】

- ・「東京の会社にアンケート集約を任せている理由を知りたい」という自由意見があるが、富良野のことをどれだけ知ってやっているのか。

【事務局】

- ・アンケート項目については、富良野市と協議をして検討・精査している。審議会委員にも内容確認をお願いしているので、ご意見をいただければと思う。

9. 今後のスケジュールについて

- ・環境審議会委員からの意見聴取

2月21日（金）まで ※追加修正あれば

- ・パブリックコメント実施

2月28日（金）から3月19日（水）

- ・冬の環境展（地球温暖化に関するトークイベント）の開催

3月9日（日）10時から16時 フラノマルシェ2 タマリーバ

10. 閉会